

2012年



日本画家と中国工筆画家各50名の作品を一堂に展覧した「日中美術展」。テープカットを行なう日本画家の松尾敏男副会長(右三)、田淵俊夫日本側実行委員長(右二、常任委員)、工筆画家の何家英中国側組織委員長(左二)、何静中国大使館参事官(左三)ら —2012年9月4日 東京

日中国交正常化四十周年、日中両国で各種記念行事が計画された。しかし、石原都知事の尖閣諸島購入計画に端を発し、七月に野田首相が国有化方針を表明したことにより、日中関係が危機に陥った。協会でも予定していた交流の半数近くが中止や延期となった。辻井喬会長は九月と十月に訪中、関係各方面の人士と打開



世界各地から芸術家が集う祭典「相約北京」に、城田優(左二)、中川翔子(右二)両氏が参加し、コンサートを開催。会場は大勢の中国の若者で賑わった。北京へ出発前、程永華中国大使(中)を訪ねた両氏とワタナベエンターテインメントの吉田正樹会長(右一)、渡辺ミキ社長(左一) —5月2日 東京

策について協議を重ねた。十二月の衆院選で自民党が大勝し、第二次安倍内閣発足。
二〇一二年の主な交流
◎2月 辻井喬会長ら日中友好七団体の会長が訪中、日中国交正常化四十周年記念共同コミュニケーションを発表。賈慶林政協主席と会見、中野暁常務理事らが同行。
◎3月 唐家璇氏が中日友好協会会長に就任。中国印刷出版文化交流訪日団(傅廷煦団長)来日。上海市文学芸術界連合会代表団(譚晶華団長、范林元、丁大波、繆金元、章宏偉、孫文傑の諸氏)来日。『書業六十年』

大楽華雪の世界」展(毎日新聞社、財団法人毎日書道会、中国書法家協会展覧部主催、当協会などが後援)北京・中国美術館で開催、開幕式に中野暁常務理事が参加。
◎4月 中国演劇家代表団(季国平団長、沈鉄梅、陳彦、朱正明、李華藝の諸氏)来日。日中国交正常化四十周年記念「日中代表書法家展」(当協会、全日本書道連盟、中国書法家協会、東京中国文化センター主催)開催、同展はさらに新潟、長野でも開催。開幕式に中国書法家協会の趙長青常務副主席、李一、蒙建軍両氏、中国書法家協会代表団(何奇耶徒団長、副主席、畢政、

外連絡部主任(左)と —四月二日、東京
能楽師の観世喜正氏(中)に能の歴史や演目について紹介を受け、舞台上で装束を着用する川劇俳優の沈鉄梅氏(右)。中国戯劇家協会の李華藝対



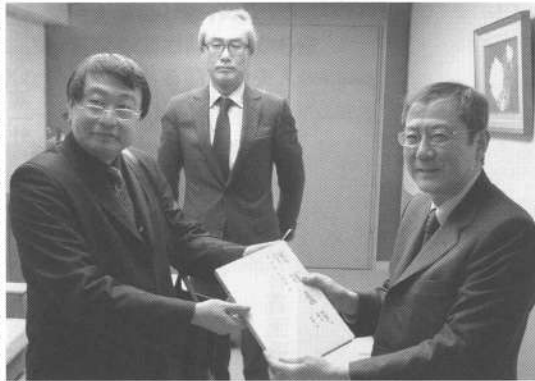
張銅彦、崔志強、李雋の諸氏)が出席。日中国交正常化四十周年記念事業「日中国民交流友好年」新たな出会い、心の絆」(中日国民交流友好年実行委員会、駐日中国大使館主催)東京で開催。開幕式に、蔡武文化相、程永華大使、辻井喬会長、黒井千次副会長・理事長、横川健専務理事らが出席。中国美術家代表団(何家英団長、陶勤、于小冬、康劍飛、呂岩峰の諸氏)来日、美術作品の著作権保護に関する座談会に出席。中国国家博物館代表団(呂章申団長、館長、屈盛瑞、董清、潘晴、高偉、金燕の諸氏)来日。
◎5月 「北京で会いましょう(相約北京)」(中国文化部、北京市など主催)開催、城田優氏、中川翔子氏がそれぞれ北京で公演。ワタナベエンターテインメントの吉田正樹会長、渡辺ミキ社長が訪中、中国対外演出公司の受け入れ、当協会が協力。神田さち子氏一人芝居「帰ってきたおばあさん」北京公演、当協会が協力。「中国生活文化体験の旅」訪中団(阿部まさ子、泉春霞、香山妙子、木村美智子、佐久間百合、佐藤純子、竹島文子、照沼真理恵、土門静子、行方信枝、三橋貞子、森リエ子、横松美千繪、小暮貴代の諸氏)訪中。「新疆ウイグルシルクロード」探索の旅」訪中団(羽原清雅団長、津村洋副団長、木村義倫、小暮貴代、酒井幸、出町千鶴子、竹



常磐津英寿顧問(左)に、蘇州評弾を披露する上海市文学芸術界連合会代表団の范林元氏(右)。日本文学研究者の譚晶華団長(中)と
—3月27日 東京

本リサ秘書長らの諸氏) 訪中。
◎6月 日中国交正常化四十周年記念「日本詩文書作家協会書展〜心の故郷、そして今を書く〜特別展示・日中文化人の書」展(日本詩文書作家協会、当協会、中国文学芸術界連合会主催)開催、開幕式に中国文学芸術界連合会代表団(劉蘭芳団長、陳洪武、張桐勝、潘和平、韓新民、劉燕銘の諸氏)が出席。画家の原田泰治氏が記念講演「日本の道」。特別展示の日本側出品者は、アグネス・チャン、嵐圭史、伊藤京子、稲葉真弓、奥谷博、金子兜太、後藤純男、三枝成彰、里中満智子、千宗室、

美術関連書籍の出版状況を視察に訪れた江西美術出版社の傅廷煦副社長(左)に、小学館「世界美術大全集」の編集内容について説明する相賀昌宏社長(右)、協会顧問と蔵敏則出版局チーフプロデューサー(中)
—三月二十一日 東京



辻井喬、仲代達矢、野村萬、原田泰治、坂東玉三郎、松尾敏男、松本幸四郎、三田寛子、宮城谷昌光、森下洋子、吉永小百合の諸氏。中国側出品者は、孫家正、馮遠、尚長榮、濮存昕、祖紹先、張金玲、徐沛東、宋小明、劉大為、呉長江、姜昆、唐愛國、賈作光、彭松、馮驥才、羅揚、張宇、張桐勝、唐國強、李京盛の諸氏。「日中先端医療シンポジウム」(未来医学研究会、当協会主催)東京で開催、中国未来医学代表団(王秀雲団長、劉鳳嵩、李勝文、応森林、

「日中文化人の書」展開幕に際し、席上揮毫を行なう辻本大雲日本詩文書作家協会副理事長(右、協会常任委員)と中国側出品者の張桐勝氏
—六月四日



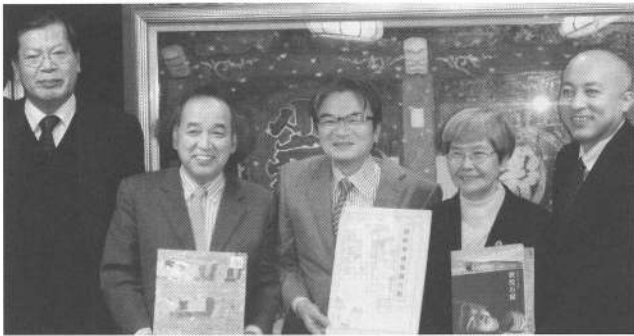
税朝祥、盧清君、王廉一、梁宗禹、牛文彦、張孝萍、李琨の諸氏)が出席。日中文化交流協会代表団(黒井千次団長、横川健、前村大成、大成浩、浅野均、小阪裕二の諸氏)訪中。
◎7月「感知中国—中国現代国画展」(中国国務院新聞弁公室、中国美術家協会主催、当協会など協力)開催、開幕式に中国美術家協会代表団(劉大為団長、陶勤秘書長らの諸氏)出席。日本経済界訪中団(杉田亮毅団長・日本経済研究センター会長、野村明雄大阪ガス相談役、矢野龍住友林業会長、榎田松登三井物産会長、小林哲也帝國ホテル社長、木瀬照雄OTTO会長、丹

呉泰健読売新聞社監査役、大田弘子政策研究大学院大学教授、作家の安部龍太郎氏、中野暁秘書長、池田尚広秘書の諸氏ら)訪中。日本音楽家訪中団(永井和子団長、小泉恵子、馬込勇、釣谷真弓、吉野まや秘書の諸氏)訪中。
◎8月 蘭州大学で開催の「西域・遙かなる響き 井上靖と中国」特別シンポジウムに、井上修一、鈴木貞美、傳馬義澄らの諸氏が参加。日本少年野球選手団(宮寄庄次団長)一行四十五名訪中。
◎9月 日中国交正常化四十周年記念「日中美術展」(日中美術展実行委員会、当協会、日本経済新聞社、NHKプロモーションなど主催)東京美術倶楽部で開催、開幕式に中国工筆画家代表団(何家英団長、劉新華副団長)一行十四名が出席。辻井喬会長ら日中友好団体代表が訪中、賈慶林政協主席と会見。横川健専務理事らが同行。劇団道化「しようぼうじどうしゃ じぶた」雲南省で日中合同公演。
◎10月 北京・国家博物館で「日中代表書法家展」開催。日中文化交流協会代表団(辻井喬団長、横川健、酒井喜一郎、成田龍一、松田一彦、小暮貴代の諸氏)訪中。西日本文化界訪中団(中川健造団長、中野暁秘書長、中川恵子、池永重彦、沢田祐典の諸氏)訪中。
◎12月 文化講演会で松尾敏男氏が講演「画業七十年を振り返って」。莫言氏、ノーベル文学賞受賞。駐中国大使に木寺昌人氏。中国遺棄毒ガス兵器教化事件被害者らが日中友好七団体の代表と懇談。

2013年



王秀雲中日友好協会副会長(左四)の歓迎を受けた日中文化交流協会代表团。篠田正浩団長・副会長(右三)から『日中文化交流』誌創立以来の合本が贈呈された。袁敏道中国人民対外友好協会アジア・アフリカ工作部主任(右一)、代表团団員の(王副会長から左へ)高山由紀子、観世清和両常任委員、坂口貴信、山田起雲(右二)の諸氏
—2013年8月16日 北京



樊錦詩院長(右二)、王旭東副院長(右一)ら敦煌研究院一行が来日し、翌年迎える同研究院と東京藝術大学の交流30周年に先立つシンポジウムに参加した。前日の歓迎会で更なる交流の深まりを期待する東京藝大の宮田亮平学長(中)、宮廻正明教授(左二、協会常任委員)、畑中裕良副学長(左一)
—2月19日 東京

●3月 「日中桂林書画連合
開催、敦煌研究院から樊錦詩院長、王旭東副院長らの諸氏来日、当協会が歓迎茶話会を開催。
●6月 日本詩文
書作家協会書展で洋画家の絹谷幸二氏が記念講演「アートな匙加減」。

●7月 文化講演会で池辺晋一郎氏が講演「音は生き物、すなわち自然」。



安徽省の伝統劇である黄梅劇を鑑賞した日本演劇家訪中団。佐々木愛団長(左三、協会常任委員)、山本与志恵(左四)、清水馨(右四)、中島文世(右三)の諸氏
—11月11日 屯溪

二〇〇四年の就任以来、十年間にわたり協会を牽引してきた辻井喬会長が十一月二十五日に逝去、協会は辻井会長の志を受け継ぎ、新たな体制で歩むことになった。この年、中国では四川省、甘肅省で相次いで大地震が発生、国内では特定秘密保護法が可決された。日中政府間交流は一向に改善されず、先行き不透明の状況が続いた。
二〇一三年の主な交流
●2月 坂東玉三郎氏、パリで日中合同昆劇公演「牡丹亭」上演。東京藝術大学でシンポジウム「敦煌研究院と東京藝術大学—交流のこれから—」(同大学主催、当協会が協力)開催、敦煌研究院から樊錦詩院長、王旭東副院長らの諸氏来日、当協会が歓迎茶話会を開催。

●3月 「日中桂林書画連合
開催、敦煌研究院から樊錦詩院長、王旭東副院長らの諸氏来日、当協会が歓迎茶話会を開催。
●4月 「日中現代書画名人展」(当協会など後援)東京で開催、開幕式に李鶴子氏らが出席。
●5月 西日本文化界訪中団(中川健造団長、中野暁秘書長、中川恵子、池永重彦、廣島雪雄、廣瀬邦彦、廣瀬美和子の諸氏)訪中。中国人民対外友好協会代表团(王秀雲団長、関立形、王占起、程海波、張振興の諸氏)来日。「魯迅の言葉」(平凡社と中国・三聯書店の共同出版)が「世界でもっとも美しい本賞二〇一三」受賞(デザイン・原研哉氏)。

●6月 日本詩文書作家協会書展で洋画家の絹谷幸二氏が記念講演「アートな匙加減」。

●7月 文化講演会で池辺晋一郎氏が講演「音は生き物、すなわち自然」。



尖閣問題の影響を受け、延期となっていた「日中代表書法家展」北京開催が実現した。開催を祝う張海中国書法家協会主席(中)、全日本書道連盟の清水透石副理事長(右)、田中節山常務理事事務局長(左)

—10月25日

作曲家池辺晋一郎常任委員の文化講演会。「音は生き物、すなわち自然」と題し、「モーツァルトなどの名曲をピアノで演奏しながら「音」の本質について語った

—七月十一日 東京



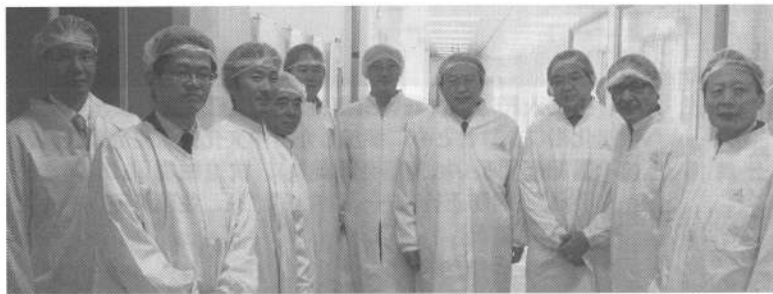
西日本文化界訪中団の中川健造団長(右、協会顧問)は旧知の周明偉中国外文局局长(中)に愛新覚羅溥傑、浩夫妻ゆかりのアサガオの種を贈った。中日友好協会の杜曉曦氏と

—5月28日 北京



工筆画家劉新華氏(右一)らが日本画画材の視察のため来日。京都では日本画家竹内浩一氏(右二、協会常任委員)とともに、大徳寺の秋吉則州住職(左一)の案内で狩野探幽の襖絵を鑑賞した

—7月5日



日中共同でアジアに新しい医療を提供すべく二〇一一年に始まった日中先端医療交流。この年、前年の東京に続くシンポジウムが天津で開催された。写真は漢方薬の製造工場を參觀するパネリスト一行。程海波中日友好協会友好交流部長(右四)、赫維天津市人民对外友好協会秘書長(右一)と

—十月二十九日

◎11月 日本演劇家訪中団(佐々木愛団長、山本与志恵、清水馨、中島文世、竹本リサ秘書の諸氏)訪中。十一月二十五日、辻井喬会長逝去。

み秘書の諸氏)訪中。
◎9月 「鄧林絵画名作展」福山・中川美術館で開催。世界演劇学校フェスティバル、北京中央戯劇学院で開催、桐朋学園芸術短期大学が参加。

◎10月 「日中代表書法家展」(中国書法家協会、中国国家博物館、全日本書道連盟、当協会が主催)北京・中国国家博物館で開催、開幕式に全日本書道連盟代表団(清水透石団長、中野曉顧問、田中節山副団長、谷村篤堂、鹿倉碩齋、田中珠光、川野純一の諸氏)が出席。出展作品を中国国家博物館へ寄贈。「日中先端医療シンポジウム」(中国人民对外友好協会、中日友好協会など主催)天津で開催、同シンポジウム参加の未来医学研究会一行(岡野光夫会長、森清一副会長、安田章夫理事、大林尚、金井信雄、久保寛嗣、中川敦寛の諸氏、当協会から中野曉専務理事、池田尚広氏)訪中、当協会が協力。